「はしっこ同盟」はしっこも集まりゃ俺らがど真ん中

渡島、後志、胆振管内の「はしっこ」に位置する3町が一つの目標に向け、町それぞれの特性を活かした取組を推進するために結成した「はしっこ同盟」について紹介します。

「黒松内町」歌才ブナ林など豊かな自然環境が生み出す落ち着きのある町

「長万部町」駅弁かにめしの町として全国的知名度がある

「豊浦町」ホタテ耳吊り養殖噴火湾における養殖発祥の地

「はしっこ」の俺ら

長万部町（渡島）、黒松内町（後志）、豊浦町（胆振）の3町はそれぞれ別の振興局管内の「端」に位置しており、振興局の境界を背中合わせに隣り合っているにも関わらず町職員同士の交流は少なく、相互の情報は入りにくい環境にありました。

しかし、古くは昭和初期頃から、長万部町の市街地は、豊浦町の方々の買い物などを支えた生活圏であったことや、黒松内町と長万部町は共に国鉄の町として発展し交通の要衝であることなどにより、3町それぞれ親類縁者や高校の学友など人の繋がりが多く、3町の首長も顔合わせする機会が多くありました。

また、近年の3町は、産業祭り等のイベント時には町内外から人が集まりやすい「便利な田舎」である一方、時代の変化によって、日常的にはより大きな商圏への通過地となってしまうため、観光や物流など様々な面で共通の課題も抱えていました。

「はしっこ同盟」結成

そのような中、平成30年に「令和12年度開業予定の北海道新幹線長万部駅の整備計画」の策定に向け、駅の圏域である近隣市町村の首長が長万部町に集う意見交換がありました。その際に、長万部、黒松内、豊浦3町の首長が、地理的条件が一致し共通する課題意識を持つ自治体同士の共感をもとに「3町でなにかできないか」と意気投合。これを機に3町の首長をはじめ、職員の交流や情報交換等を深めていき、平成31年4月に新幹線開業効果を最大限に発揮させる取組を推進することを目的に、3町連携会議「はしっこ同盟」に関する協定を調印することになりました。

同盟調印後の取組

「はしっこ同盟」結成後、3町各町が独自に持ち寄った予算により、長万部町が運営主体の事務局として、取組の検討が始まりました。振興局管内の垣根を越えての取組は、3町にとって初めての試みであることから、担当で情報交換を複数回重ねて、職員同士の交流を深めながら、新幹線駅だけでなく圏域の活性化に向け、交通アクセス、商工観光の振興など様々な面において

広域的な調査・研究を行い、商工会や観光協会などの関係団体とも繋がりを広げていきました。そして最初の取組として、3町のそれぞれの魅力を伝えるため、各町の産業まつりにはしっこ同盟のブースを出展したことで対外的な活動がスタートしました。同盟による複数の取組を行い、住民や町外の方にとって3つの町を一度に知ることができる仕組み作りに成功しています。また、職員にとっても3町それぞれが「ひとつの地域であり、自分たちの地元」という一体感が生まれ、まちの宣伝効果を高めています。3町のそれぞれ寄り添う意識があるからこそ、地域活動の広がりが形成されつつあります。

ホテルレストランとのコラボ

3町の食材を味わう企画として、センチュリーロイヤルホテル（札幌市中央区）と協力し、令和3年度から「はしっこ同盟フェア」を開催しています。フェアでは、同ホテルのレストランにおいて、ミニトマト（長万部町）、チーズ（黒松内町）、豚肉（豊浦町）をはじめとする3町の食材の味わいを存分に感じられる特別メニューを提供しています。

▲ホテルと協力し開催したフェアで提供した3町の食材を使った料理

また、はしっこ同盟結成に至る経緯や3町を紹介する「はしっこ同盟ロビー展」の同時開催、料理提供時に「はしっこ同盟ランチョンマット」を使用するなど、レストランの特別メニュー以外の部分でもはしっこ同盟に興味を持ってもらえる工夫を凝らしました。

ふるさと納税返礼品の提供

ふるさと納税の返礼品として、3町の特産品を詰め合せた「はしっこ同盟セット」を作成しました。

「はしっこ同盟セット」は3町のどの町へ寄附をしても返礼品として選ぶことが可能で、一つの町への寄附でも3町の特産品を味わうことができる仕組みになっています。

▲3町のふるさと納税返礼品「はしっこ同盟セット」

◀札幌チカホ空間でのふるさと納税PRイベント

「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」への参加

令和2、3年度は今金町・せたな町を加えた5町で、北海道運輸局の実施する「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」に新しい周遊観光エリア「はしっこユナイテッド」と称して参加しました。この取組では新型コロナウイルス感染症終息後の訪日旅行を待ち遠しく思う日本ファンが多いシンガポールへ向けて、5町の魅力を伝えるWEBセミナーを開催しました。

3町の連携にとどまらず、近隣地域とも協力して地域連携の輪を広げています。

▲シンガポールへ向けたプロモーション事業の様子

今後の取組の方向性

新幹線駅の利用だけにとどまらず、地方創生や移住定住、介護福祉や産業振興などの様々な分野での連携の可能性を検討しています。

当面の取組としては、各町の産業まつりや大都市圏での物産展などの共同出店、豊浦町の秘境駅、小幌トレッキングや、黒松内町の北限のブナ林ウォークなどの地域資源を活かした周遊観光ツアーの開発ですが、各産業界の人材、特に将来を担う若手の交流に力を入れて、8年後の新幹線長万部駅開業の機運を高めていきたいです。

担当者の声 ～取組を通じて～

長万部町新幹線推進課
新幹線・政策推進係兼
まちづくり推進課企画係
主任　中村　絵美さん

私は、はしっこ同盟が結成された令和元年度から、担当としてはしっこ同盟の事務局運営に携わっています。最初は隣町との仕事の進め方の違いに戸惑っていましたが、ゼロから手探りで隣町の職員と共同で運営を進めていく中で、黒松内町、豊浦町への理解が深まりました。

昨年12月に行った札幌市内のふるさと納税関係のイベントでは、SNSの告知を見てくれた黒松内町出身である札幌市内の高校生達が、冬休みの帰省途中に立ち寄ってくれて、会場を撮影した写真を自分達のSNSに投稿してくれました。

また、豊浦町ゆかりの方とは当時話題だった豊浦町の「海産総選挙」のお話しで盛り上がりました。町内でも、様々な場面で、3町の繋がりを「はしっこ」と表現してくれる住民が増えている、と感じます。

こうした取組を通じ、隣町の住民との繋がりや若い人が自分の町を意識してくれていることを身近に感じられることは良いことだなと感慨深く思います。

また、3町分の住民から応援の声が聞けるようになり、仕事のモチベーション上昇に繋がっています。

本記事の内容は、長万部町新幹線推進課で担当しております。
〇事業に関するお問い合わせ先　TEL:01377-2-2450

『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～

後志編

なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

▲「子どもたちの夢と希望がたくさん詰まったポケットのような施設」であって欲しいと願いを込め、『ぽっけ』と命名されました。

令和4年9月1日訪問

「るすつ子どもセンターぽっけ」編

今回まずご紹介するのは、留寿都村の地域共生型の児童福祉中核施設「るすつ子どもセンターぽっけ」です。

この施設は、平成27年に、子どもたちの成長を就学前から就学後まで一貫して把握しやすい環境を図ることを目的に、保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ、小型児童館の機能を複合化し、村営の施設として開設されました。

市街地中心部に建設することで、施設の空き時間を地域の活動に有効活用するなど、多世代交流の場としてコミュニティ維持に資する役割も果たしており、子どもたちだけではなく、地域の方たちも利用できる地域共生型の施設となっています。

また、この施設には留寿都村をはじめ、後志産の木材がふんだんに使用されています。

子どもたちが植林への参加を行い、植林した木が成長したときに、木材となり施設の補修に使用されるなど、森を育てることなどの必要性について、施設そのものを教材として学べるとともに、地材地消への理解を深めることにも役立ちます。

知事の訪問当日も、木のぬくもりの中で、子ども達がのびのびと過ごしている姿が印象的でした。

この素晴らしい施設のもとで、地域の将来を担う多くの子ども達が育っていくことが期待されます。

▲子どもたちの地材地消への理解を深めるため、「ぽっけ」を教材とした工事現場見学会

▲木のぬくもりが感じられる明るい室内。
地中熱の利活用や高い断熱性と気密性を有する構造により、エネルギー消費量を50パーセント以下まで削減するＺＥＢ Ｒｅａｄｙを目指した施設となっており、「ゼロカーボン北海道」を牽引する取組として、注目を集めています。

◀平成28年には、取組が高く評価され北海道経済産業局の「北国の省エネ・新エネ大賞」を受賞

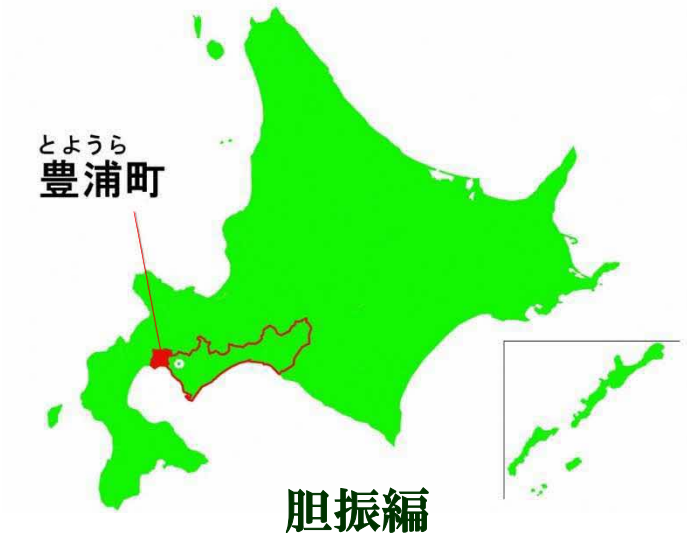
当日の知事の言葉から

地域の木材がふんだんに使われた本施設を教材として、これからの地域の将来を担う多くの子ども達が成長していくことが心から楽しみです。

あらためて地域材の魅力を実感するとともに、地域の明るい未来を感じさせていただきました。

なおみちカフェ（留寿都村編）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

▲毎年、地元のアイヌの方たちは神々に感謝を述べる伝統の儀式「カムイノミ」などを行っています。



令和4年9月2日訪問
豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」
・地域イベント 編

次に、豊浦町の地域の魅力発信の取組をご紹介します。まず、礼文華海浜公園にある豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」です。

アイヌ語で「宝物」を意味するこの施設は、豊浦町の宝であるアイヌ文化遺産を広く町内外に発信することを目的として、本年4月にオープンしました。施設内部には熊の毛皮やイナウ（祭具）などを展示し、公園や隣接するキャンプ場を訪れた人がアイヌ文化に触れられるようにするなど、アイヌ文化の普及・啓発を推進するとともに、地元のアイヌの方々が伝統的儀礼を行うためにも施設が活用されています。

施設の隣には、トレーラーハウスを活用した宿泊施設も整備されており、今後は、アイヌ文化や地域の歴史を学べるパッケージツアーも検討されているとのことです。

▲宿泊施設として整備されたトレーラーハウス

▲ユーモアあふれる大会ポスター。プロモーションにも力を入れています。

▲海産総選挙　鮮魚公報

こうしたツアーなどを活用し、今後、より多くの方々がこの施設を訪れることが見込まれます。

また、この日の懇談には、一般社団法人噴火湾とようら観光協会の岡本事務局長やＴＯＹＯＵＲＡ世界ホタテ釣り協会の宇川チェアマンも参加され、豊浦町の海の幸を候補者に見立て人気ナンバー１を競う企画「海産総選挙」や、町の宝であるホタテを使用したご当地競技「ホタテ釣り選手権」など、皆さんの地域への愛と柔軟な発想によって生み出されたユニークな取組についてもお話を伺いました。

いずれの取組も、各種メディアに大きく取り上げられるなど、話題を集めています。

伝統文化の発信や、地域資源を活かしたユーモアあふれる取組によって、今後ますます注目を集めることが期待されます。

当日の知事の言葉から

この新しい施設や海産総選挙、ホタテ釣り、これらを支える方々が、どのように地域を盛り上げていこうか考え、実践し続けているのは、本当にすごいことだと思います。

この素晴らしい取組を多くの方に知って頂けるよう、北海道も力を尽くしていきたいと思います。

なおみちカフェ（豊浦町編）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTube チャンネル）